

ひらやま その五

※ 文集冊子「ひらやま」の継続版として随時、児童の作品を掲載します。特に四月以降に学校で書いた作文や詩などで、表彰された作品や新聞等に掲載された作品などを紹介します。今回は、「宮崎日日新聞」に掲載された作品です。

「思いやりの行動」

六年 佐藤 穂乃実

私は道徳の時間「思いやり」ってどんなことを考えました。私はいろいろ思いやりの行動をされているなと思いました。それが二つあります。一つ目は、野球の試合のときです。私たちのチームは3対1で勝っていました。でも、私がピッチャーをしたときフォアボールなどで3対4で逆転されました。私は思わずぐしゃくして泣いてしまいました。そのときいっしょのメンバーがぐさめてくれました。そのおかげで今の自分があります。それも思いやりだなと思いました。

二つ目は、買い物のときです。私はお母さんに、アイスコーヒーをついでとたのまれたのでつこうとしたとき、手がすべってしまい、氷をゆかに落としてしまいました。そのとき、男の人が拾うのを手伝ってくれました。私は、優しいな、ありがたいなと思いました。

私は、この二つの出来事があってこの人たちみたいに優しく、思いやりある信らいされる大人になりたいなと思いました。

「思いやり大切に」

六年 甲斐 愛莉

私の思う思いやりは、人がうれしくなったり、喜んでくれることだと思っています。たとえば、人が物を落としたときに拾ってあげたり泣いている小さい子に声をかけたり、お年寄りがこまっているときに助けたりすることだと思っています。

少し前にお店でお母さんと買い物をしているとき、「チャリン」と音がして、後ろを見ると、おじいさんが1円を落として気づいていないまま歩いていたので1円を拾っておじいさんにわたしました。すると、びっくりした顔で「ありがとう」と喜んでくれました。そのとき私はうれしくなりました。

また、学校で私が勉強がわからないときに友達が教えてくれたり、はげましてくれたりすると、とてもうれしくなります。

だから、これからも思いやりを大切にして、人のためになるようなことをしていきたいです。

「大人へ一歩一歩」

六年 田邊 京汰

ぼくは先週の火曜日に、歯がぬけました。もっと正確に言うとか、火曜日の朝ごろにぐらぐらし始めて、夜ご飯を食べている時にぬけました。

なぜ夜ご飯を食べているときにぬけたかというところ、その日のおかずがからあげで、からあげを食べているときにぬけました。これまでぬけた歯は、5本から7本程度だったと思います。

歯がぬけるということは、大人に近づいてきているということなので、6年生としての自覚を持ち、残りの時間をすごしていきたいです。